

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都港区芝 2-1-27 2階
園名	NK 芝公園保育園

## 1 活動のテーマ

<テーマ>

絵本活動の充実の保育環境を整える

<テーマの設定理由>

- ・子どもたちが安心して絵本に親しめる環境づくり
- ・情緒の安定と安心感の提供
- ・絵本を中心に広げる子どもの「わくわく」を育む保育環境

## 2 活動スケジュール

- ・ベンチや環境植物などを用意して「落ち着きの場」として機能するために、周囲の環境（光・音・距離）を整える
- ・表紙が見える「見せる収納」や季節・テーマごとのコーナーづくり
- ・貸出絵本コーナーの充実
- ・絵本からイメージを広げた制作活動やごっこ遊びへの展開
- ・集中できるコーナーづくり

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ベンチ、ビーズクッション、絵本収納棚、興味が広がる絵本、図鑑の充実、観葉植物

## 4 探究活動の実践

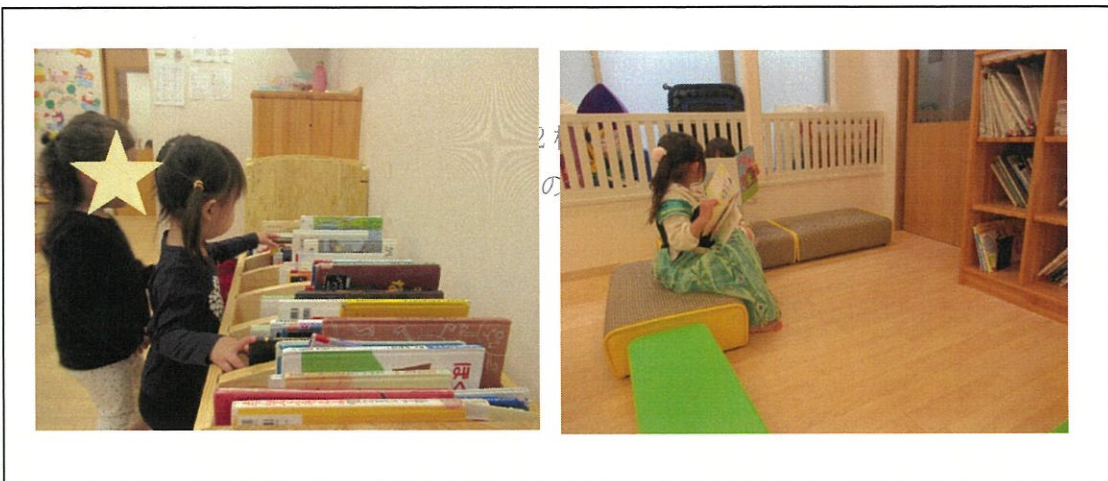
### <活動の内容>

- ・子どもの様子を見ながら落ち着いて、絵本を見れる環境を考える
- ・子どもが絵本を選びやすいように子ども自身で取り出しやすく、見やすく配置する
- ・図鑑の近くに植物や生き物を配置して興味を持ち、調べたり、見やすく用意する

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・食後や活動中など本を好きな場所で見ることがあった。また、ベンチを用意することで子ども同士並んで一緒に絵本を見たり、絵本の世界を楽しむ姿が日常の様子となってきた。植物や生き物などを保育者が持ってくることで子ども自ら開いて「これだよ」と調べる姿が見られた。また、保育者も子どもたちが興味を持ちそうな柑橘類を数種類用意したり、キノコ栽培など一緒に図鑑を見て子どもと楽しむ姿が多く見られるようになった。

## 5 振り返り



### <振り返りによって得た先生の気づき>

子どもが自ら絵本や図鑑に手を伸ばし、興味をもって調べたり友だちと共有したりする姿から、子どもの主体性を引き出す環境づくりの重要性を改めて実感した。また、ベンチの設置や素材の工夫など、環境を整えることで子ども同士の関わりや学びが自然に広がることに気付いた。さらに、保育者の意図的な関わりと環境づくりが、子どもの探究心や言葉のやりとりを豊かにすることにつながると感じた。今後も子どもの姿に寄り添いながら、環境づくりと関わりを工夫し、主体的な学びを支えていきたい。

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区芝 2-1-27 2階
園名	ニチイキッズ芝公園保育園

## 1 活動のテーマ

### <テーマ>

・和食を知ろう（だしの飲み比べ）・絵本の世界の食べ物を実験しよう（あぶくたった）（しろくまちゃんのホットケーキ）みんなでバイキング給食を楽しく食べよう

### <テーマの設定理由>

- ・和食の日の絵本を読み、実際にだしの違いを感じてみる。
- ・子どもたちの好きな絵本の中の興味にあるメニューと一緒に準備し、作り食べることで食への喜び楽しみを体験してもらいたい。
- ・バイキングは自分で選んで食べることを楽しむことで食への興味を広げる。

## 2 活動スケジュール

パンケーキ（しろくまちゃんのホットケーキ）

4月上旬：保育者と絵本を読み、興味を持つ

4/14：クッキングの身なりの準備をして一緒に混ぜて作る、食べる

小豆煮（あぶくたった）

1月 あぶくたったの絵本を読み、一緒にわらべ歌遊びをして導入する

2月 小豆を洗い、感触を味わう。幼児室で圧力鍋で炊く。煮えた感触を味わい、砂糖を混ぜて、午後おやつで食べる

和食の日（野菜だしを作り飲む）11/21

わくわくランチバイキング（2, 3, 4, 5歳児）

7月 自分で食べたいものを選ぶ（2歳児は保育者と一緒に選ぶ）

11月自分で食べたいものを選び、盛り付ける（2歳児は保育者と一緒に盛る）

3月 自分の食べたいものを自分で盛り付け、友だちと楽しく食べる

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・子どもの前で調理をする為にクッキングヒーター、圧力鍋や子どもたちがよそやすい道具（お玉、しゃもじ、トング、すしおけなど）サイズや握りやすい物を用意した。
- ・クッキングヒーター使用時は子どもたちの怪我につながらないように衝立をした。

#### 4 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・クッキング（生地を混ぜる、調理者見本を見ながらできたパンケーキにあんこをのせて仕上げ食べる）
- ・バイキング（2歳児は保育者と一緒に、幼児は保育者の見守りの中で自分で食べたい食材を選び、楽しんで食べる）

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・パンケーキや小豆煮など絵本の食べ物と実際の食べ物が結びつき、興味を持って活動に熱心に参加する様子が見られた。また、日頃は食べることに興味がない子も食べる様子が見られた。
- ・バイキングは2歳児は自分で選びたい時期なので、保育者に手伝ってもらい一緒に食器に入れることで満足し、食欲も増していた。幼児組は自分で選び、食べ終えお代わりに行けることを喜び、日ごろの給食よりも意欲的に食べていた。また、よそい方も回を重ねるごとに加減をわかり上手になってきた。毎回期待を持って楽しみに登園する様子が見られた。



## 5 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

今年度は、クッキングやバイキングなどの食育活動を通して、子どもたちの食への興味や意欲を育む取り組みを行いました。絵本と実体験を結びつけることで主体的に参加する姿が見られ、これまで食に関心が薄かった子どもにも変化が見られました。保育士からは、環境や関わり方によって子どもの意欲が引き出されることへの気づきが共有されています。また、バイキングでは自分で選ぶ経験を通して満足感や意欲の向上につながり、発達に応じた援助の大切さを改めて実感する機会となりました。今後も、子どもの発達や興味に応じた食育活動を継続していきます。

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区芝 2-1-27 2階
園名	ニチイキッズ芝公園保育園

## 1 活動のテーマ

<テーマ>

- ・自然と共に育つ感性を育てる
- ・探求心、想像力を育む

<テーマの設定理由>

自然への気付きを促すようにする（葉っぱの色の変化、自然植物の観察）  
自然物に気づき、観察し名前を付けてみる（めだか、くわがた、カブトムシなど）

## 2 活動スケジュール

5月レモン木、ブルーベリーの木を用意する  
レモンの木に蝶のさなぎがついていた、レモンは実らなかったことも観察した。  
ブルーベリーの木は実り、色づきを観察する  
7月保育者実家よりクワガタをいただく  
保護者からもクワガタ、カブトムシをいただく  
別の保護者からメダカをいただく  
図鑑やDVDや絵本などを用い保育者と一緒に観察する。感じたことを発表する  
秋・秋の花や葉っぱなど感触を感じながら、自然活動をする  
また、採取した小枝やどんぐりや石を比べたり、制作をする

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

めだか、水槽一式、ブルーベリーの木、レモンの木、虫眼鏡、マイクロスコープ、ピンマイク（発表用）、ピオラ、モンステラの木、DVDプレイヤー（図鑑のDVD用）  
図鑑

## 4 探究活動の実践

### <活動の内容>

園内に水槽や虫かごなどを用意し、身近に触れ合えるようにする。夏に職員の実家からくわがたが届いたことから、昆虫に興味を持ち自然物に興味が出てきた。子どもたちも休みに虫取りしたクワガタを園へ持ってきて、一緒に生育を見守り、図鑑を広げて見る、餌をあげる。またいただいたメダカが卵を産みメダカに成長する様子を子どもたち、保護者、保育者で観察する

レモンの木を用意し、さなぎが見ついたのでさなぎから蝶になる様子を観察した。ブルーベリーの木は色づきを毎日観察し、収穫をすることを楽しんでいった。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

レモンの木をみて子どもたちはさなぎを見つけ、さなぎを皆で観察したり、図鑑をみていた。保育者と一緒に成長を見守る姿が見られた。また、今年度はブルーベリーの木やモンステラなど園内に緑が増えて居心地の良い環境を作ることで、自然を身近に感じていた。メダカは子どもたちや保護者、保育者の癒しや観察になり、毎日の様子を皆でみて、「たまごいたね」「すいすいしてるね」「おさかなばいばい」など言葉が見られた。

秋の自然活動では手作りバッグを作り、自然物を採取して「どんぐりあったよ」など自然物を見つけて、帰園後飾ったり、石の大きさを比べる姿が見られた。また、「こんなどんぐりがありました」など発表を楽しむことにもつながった。



## 5 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは身近な自然に触れる中で、小さな変化に気づき、自ら発見や興味を広げていく姿が見られた。さなぎや実の変化、メダカの成長などを日々観察することで、継続的に関わることの大切さや、子どもの「気づく力」「伝えようとする力」が育まれていることを実感した。また、自然物を使った遊びや発表を通して、子ども同士の関わりや表現の広がりにもつながっており、環境構成の工夫が子どもの主体的な活動を引き出すことにつながることを再認識した。今後も子どもの気づきを大切にしながら、保育者自身も共に発見を楽しみ、学びを深めて行くことが重要であると感じた。

# とうきょう すくわくプログラム実践報告書

所在	東京都港区芝 2-1-27 2階
園名	ニチイキッズ芝公園保育園

## 1 活動のテーマ

<テーマ>

- ・色を使うわくわくする体験の中で様々な材料を使い、絵を描いたりした表現を楽しむ
- ・色の探検隊（幼児）

<テーマの設定理由>

保育者が与えた活動だけでなく、子ども自身の「やってみたい」という気持ちを大切に、主体的に関わる経験につなげたいと考えた。

子どもの興味や気づきを丁寧に捉えながら、様々な素材や色に触れる機会を広げることで、表現する楽しさや発見の喜びを味わえる活動へと展開していくことを目的としている。

## 2 活動スケジュール

- 0歳児) 感触遊びからスタートし、絵の具や水に触れて楽しむ・色水づくりや色氷づくりを行い、色の変化に興味を持つ
- 1歳児) 色氷を使い、にじみや色の広がりを楽しみながら絵を描く・保育者も一緒に関わり、全身で表現する楽しさを味わう
- 2歳児) 色氷や色水の経験から、キャンパスへの描画活動へ発展・自分たちで色を混ぜながら表現を楽しみ、作品づくりにつなげる
- 幼児) ボディペイントから活動をスタート・一人ひとりの色を組み合わせ、色の変化を体感する
- ・自分の体に塗るなど、主体的に表現を楽しむ姿が見られた・子どもたち自身で色氷を考えて作る活動へと発展
  - ・最後は一枚の大きな作品として共同制作を行う

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

スモッグ、絵の具、クレヨン、氷、模造紙、キャンパス、筆、水性ペン、油性ペン  
色鉛筆、バインダー、オーガンジー

#### 4 探究活動の実践<活動の内容>

感触遊びを起点に、色水や色氷づくりを通して色の変化や広がりを楽しむ活動を行った。

年齢に応じて、1歳児は色氷での描画、2歳児は色を混ぜながらの作品づくりへと発展し、幼児はボディペイントや共同制作へと展開した。

子どもたちは自ら考え、試しながら主体的に表現を楽しむ姿が見られた。

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

色水や色氷づくりを通して、子どもたちは「まぜたら違う色になった」「つめたいね」「きれい！」など、色の変化や感触に気づきながら楽しむ姿が見られた。1歳児は色氷を使い、にじみや広がりを感じながら自由に描く姿があり、保育者も一緒に関わることで安心して表現を楽しんでいた。2歳児は「この色とこの色をまぜてみよう」と試行錯誤しながら、友だち同士で見せ合ったり共有する姿が見られた。幼児クラスでは「こんな色になったよ」「いっしょにやろう」と声をかけ合いながら、ボディペイントや共同制作に主体的に取り組んでいた。子ども同士の関わりの中で発見や表現が広がり、保育者もその姿に寄り添いながら共に楽しみ、活動を深めていく様子が見られた。



## 5 振り返り<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちは、色や素材に触れる中で自ら気づき、試し、表現を広げていく姿が見られ、保育者が用意した活動だけでなく、子どもの興味や発想をもとに展開していくことの大切さを改めて実感した。また、年齢に応じた関わりや環境の工夫により、表現の仕方や楽しみ方が広がることを感じ、子ども一人ひとりの姿に寄り添った援助の重要性を再認識した。今後も子どもの気づきを丁寧に受け止めながら、保育者自身も共に楽しみ、主体的な活動へとつなげていくことが必要であると感じた。